

迎春 今年もお願いします

皆さんご存じかとは思いますが、この宗真寺には、県無形文化財・一筆観音経書与の本竜賢宗氏（住職）、村指定の月窓公の降龍墨絵があります。前もって連絡をしていただければ見せていただけそうですので、ご覧になってはいかがでしょうか。

宗真寺でも除夜の鐘をつかれていました。鐘をつきはじめる間もなく、次々と家族そろってお寺に来られ、先祖の供養の後、鐘をついて帰られていました。鐘をつき終わるのは、一時過ぎ頃だそうです。

宗真寺でも除夜の鐘をつかれていました。鐘をつきはじめる間もなく、次々と家族そろってお寺に来られ、先祖の供養の後、鐘をついて帰られていました。鐘をつき終わるのは、一時過ぎ頃だそうです。

除夜の夜半、正子（ね）の刻（一二時）諸方の寺々で百八煩惱を除く意を寓して一〇八回撞く鐘。

除夜の鐘

広辞苑より



（とじて保存しましょう）



〈名場連 宗真寺〉

'93 1 月

発行

河辺村公民館
☎ (0893) 39-2111
内線 205・206

佐川印刷 KK
吉田町北小路
☎ (0895) 52-0600

人のうごき

(平成5年1月1日現在)

世帯数	55'
男子	800人
女子	808人
計	1,608人

H 4.1.1~1,684 (Δ 76)
H 3.1.1~1,716 (Δ 108)
H 2.1.1~1,743 (Δ 135)
S 64.1.1~1,783 (Δ 175)
S 63.1.1~1,829 (Δ 221)

やねばし

昨年暮、私は職場グループのボランティア活動の一環として、国道サイドの空カン拾いに参加する機会があった。そこでの感想……。

まずは空カンの多さと我々日本人の行儀の悪さ、公德心の無さに今更ながら驚いた訳であるが、そんな事があって、二、三日後同じ道路を通っていると、拾って無くなってしまうのは空カンが目に入った。車を降りてみてびっくり、もうそこらあたりにならぬからずらばっているのである。このままでは日本中がごみの山になってしまうのではないかとという危惧と、使い捨て経済が資源の大量消費を生み、自然破壊を助長し、世界から悪者扱いされる日本人の未来像を思わずにはいられなかった。

再生が高くつき、使い捨てが安くつくという構造自体、根本的な経済基盤の弱さ未熟さを感じるが、大量生産時代からバブル経済の時代を経て、これから欧米並の成熟した社会が期待出来ると思えば、資源保護に対する意識教育とリサイクルシステム構築の必要性を痛感した次第である。

(福)

年頭のごあいさつ

村長 大野 富士男



村民の皆様明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年中は村行政全般に亘り皆様方の深いご理解と絶大なご協力を賜り、行政全般に亘り順調に進展をいたしておりますことを衷心より感謝を申し上げます。

今や地方行政は大変厳しい時代を迎えております。国の行革に伴う国庫補助金の削減、農林業衰退及び高齢化時代の到来、さまざまな面で大きな試練にたたされておられ、時代の変化に対応する新しい行政展開を希望する中で、私

の政治理念であります皆様の付託に応えるべく「対話」を重んじ「開かれた村政」を常に心がけ、潤いと活力あふれる村づくりに懸命の努力を注いで参る決意であります。

私が常に申し上げておりますように、私の行政に対する理念は第一に、陽の当たらない場所をつくらぬ公正公平な行政の推進。社会的、経済的に弱い立場にある人に光が当たるよう努力することであります。第二は、行政に対する姿勢は常に正しく、行政機関は各分野において責任体制を確立し、村民の村政に対する信頼を確立することにありませう。第三には、法律、条例に基づき行政の推進を図り、経験と勘だけに頼る行政であってはならないと思うのであります。第四には、行政に企業的感觉を導入すると共に、財政の健全化に配慮し、節度ある行財政の運営を行うことあります。

本村にもなお多くの諸問題が山積しておりますが、新年度における村政推進の重点施策として、まず産業の振興が急務であります。

農林業は本村産業の中核として最も基本的な役割を担っており、経済生産力のみならず、生活空間の重要な構成要素としてすべての村民生活にかかわりをもっておりますので、次の諸点を重要課題として農林業の振興を図って参る所存であります。まず第一に

農林業についての情報を早く提供することでありませう。第二に農林業で生活の出来る会を充足し農林業をやる気集団を結成し、やる気集団には、希望に応じて行政が積極的に助成をして参りたいと考えております。第三に補助事業であります農林道の新設については、受益者負担金は廃止いたします。第四に本村の材木はすでに伐採期に入っておりますので、これに付加価値をつける施設は絶対に必要であります。長時間かかりました

が、木材加工所の施設整備に着手したいと考えております。第五に公共事業の投資であります。将来の交通事情を十分に見極め、交通体系の整備促進を図ることによって大洲市に三十分、松山市に十分で行ける構想の実現を考えておりますが、特に横山内子線におきましては、主要県道に昇格、早期改良推進のための期成同盟会の結成を年明け早々に計画をいたしております。公共事業に投資することによって村民の所得を守っていくことも大切なことあります。

地域の開発は一步でも遅れることなく、重点的課題にして、積極的に推進して参る所存であります。

次に教育についてであります。第一に教育施設等、教育内容の充実を図り国際化、情報化社会に対応できる子供を育てる必要がありますので、近代的教育整備として、中学校にパーソナルコンピュータを導入し、教育の向上に、また人間性豊かな子供の育成に努めて参ります。

第二に元北平小学校跡地に地域社会の拠点として機能できる設備として、地域活性化センター及び民俗資料館は平成五年度完成をいたします。また、平成三年度川崎地区元坂小跡地に建設いたしました農業構 善センターは、地域

の憩の場所となり、健康増進のため、大いに活用されておりますことは喜びにたえない所であります。農業構造改善センター附近の整備が遅れておりますが、平成五年度には農村ふれあい広場を整備いたしますので、大いに活用していただきたいと思っております。第四には修学生保護者貸付金についてであります。希望に応じて増額いたす考えでありますので、大いに利用していただけたらと思います。

次に生活環境の整備についてであります。先ず住宅の問題は重要課題であり、村民全般の方々を対象とする定住促進住宅、また、第二の若者定住促進住宅の建設の計画を考えているところでありませう。

次に水道施設の整備につきまして、川崎地区においては平成四年度で完成いたしました。現在三地域から御要望がでておりますが、水道は人々が健康で文化的な生活を営むためになくてはならない生活基盤施設で、行政の重要課題の一つでありますので、今後計画的に整備をし、又、生活道の改良舗装についても積極的に推進しておるところ

か わ べ

であります。
老人福祉についてでございますが、特別養護老人ホーム又、老人専用住宅の建設につきまして、平成五年度から実施計画に入り進めて参ります。また、老人の生きがい対策については、村民の皆様の意見を聞きながら十分に検討をいたしていく所存であります。

観光についてであります。観光事業の推進は地域活性化につながることであり、ふるさと公園を拠点とした各地域の開発を推進して参りますと共に、用の山溪谷等の開発の計画がでておりますが、これらについても今後整備して参りたいと考えております。

財政についてでございますが、国におきます平成五年度の予算概算は横ばいであり、極めて厳しい財政事情になっており、本村にとりましても迎える年は大変厳しいものであると考えております。国において示されております地方交付税の削減が発表になったところであります。

本村におきましても、財政の厳しい中、健全財政に努め、予算編成におきましても

事務全般について見直し、創意工夫し、最小の費用で最大の効果が得られるよう努力して参る所存であります。以上申し上げました各々の事業につきまして、強力に取り組んで推進し、急速な時代の流れの中にある我々は、今後更に広い視野を持ち、時代の動向を的確に把握しながら、二十一世紀に向けた豊かな河辺村を創造するため、たゆまぬ努力を重ね、本村のもつ豊かな自然や歴史性を活かした個性豊かな村づくりのために鋭意努力してまいる所存でございます。

何と申しましても、地方自治を進展させるためには、行政上幾多の問題があります。それを打開するためには、村民の皆様方の協力なくしてはその効果も上げることができないと思っております。変らぬご支援ご協力をお願い申し上げます。新年が河辺村にとりまして、幸せて平和な年でありますように祈念をいたしまして新年のごあいさつといたします。

新築内定

地域活性化センター 民俗資料館



〈完成予想図〉

平成二年三月で廃校と成りました北平小学校跡地対策につきましては、地域住民はもとより関係者一同に大変ご心配と、お待たせを致しておりましたが、地元のご意見、ご要望を最大限に採り入れた地域活性化センターの新築が内定致しました。

この活性化センターは、二階建の二階に、軽スポーツも楽しめる舞台付きの大広間、小会議等の出来る和室や、調

理実習室、倉庫を備え、あらゆる行事に対応出来る施設とし、この二階には県道から直接出入が出来る施設で、高齢者の利用にも最大限に意をそそいでおります。

一階は、民俗資料館で広場（運動場）と同じ面となり一部分は広場が見渡せるフロアと成り、スポーツ観戦や、憩いの場としても利用出来ます。また外部から直接利用出来るトイレも整備し、ゲートボール等広場を利用してのスポーツ大会にも対応出来る施設と成りますのでご期待下さい。

ふるさと公園準グランプリ受賞

建設省四国地方建設局等が主催するSKI Pグランプリにおいて、河辺村のふるさと公園が、四国四県百十九件の応募物件の中から、グランプリにそのがしましたが、さらにめき創造大賞の準グランプリを受賞致しました。

この賞は、地域に調和し、いきいき空間を形成し、人々に愛され地域の未来に貢献する公園であると認められたものです。

オープン以来、大変好評を

得ておりますが、さらに充実整備いたすこととし、現在木製総合遊具、ウッドステーション、ロープウェイ、砂場、つり橋などを発注するとともに、あじさいの植栽を行なうなど四季折々に楽しめる様整備中です。

この公園整備には、各種団体の応援も頂いております。現在までに、

民生委員、社会福祉協議会による寒梅十八本の植栽
河辺村役場職員会による桜（染井吉野）五十五本の植栽



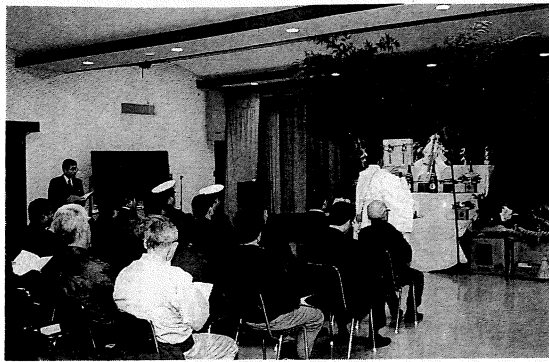
〈準グランプリの楯〉

老人会、婦人会による万両の植栽や花いっぱい運動。
商工会には、モミジ百八十五本の植栽を実施して頂きました。四季折々に訪れる人々をきつと楽しませてくれることと思っております。

願いは一つ交通安全

年末年始の交通安全運動
 (十二月二十一日～一月十日) 期間中の十二月二十五日、基幹集落センター一階大会議室において交通安全祈願祭が行われました。

今年で七回となる祈願祭には大洲警察署長(代理)・大洲交通安全協会会長及び村内交通安全関係者多数のご参列を頂き、厳粛のうちに行われました。特に年内には交通事故が多発しており、参列者全員交通安全を祈願いたしました。一方今回も老人クラブか



〈1人1人が気をつけましょう〉

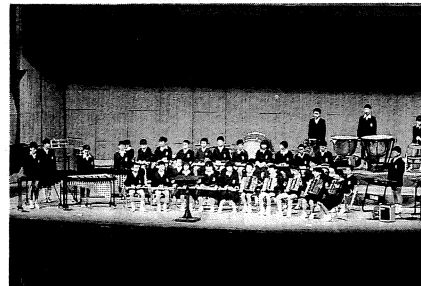
らには、会員手作りのすばらしいしめ縄約五百本を無償で提供され、また河辺中学校生徒からは一羽一羽丹念に折った鶴を十羽一組にして、交通安全スローガンを書いたたんだきを付けた折り鶴をいただき、これに神官の清祓を受け、参列者の玉串奉納して全員で交通安全を祈願しました。

祈願祭終了後は、交通茶屋を開き、安全祈願したしめ縄と折り鶴、交通安全のチラシをドライバーに配り交通安全を呼びかけました。しめ縄と折り鶴をもらったドライバーは、思わぬプレゼントにニコニコ顔で大変喜ばれました。

この行事は、昭和六十二年より毎年実施され定着した恒例の行事となりましたが、老人クラブ会員の一貫した奉仕活動と、また、中学校生徒の皆さんのご協力があつてこそ続くものであります。本当にありがとうございました。

河辺小学校

管内音楽発表会



〈上手にできました〉

「さあ、始めるよ。ゆつくり落ち着いて——。」
 十一月十九日、八幡浜市民会館ステージの上。小さな声と目で合図を送り、いよいよ演奏の開始です。

「軽騎兵序曲」(スツペ作)
 この曲に取り組んだのは、十月に入ってからでした。全八分間、難易度もかなり上の大曲です。約一か月間、音楽の時間はもちろん、放課後や昼休みを使つての猛練習でしたが、子どもたちは皆一生けん

めい取り組みました。
 静かな会場に、音楽が流れます。ゆつくり弱く、大きく力強く……。演奏が終わり大きな拍手の中、ステージを降りる子どもたちの顔は輝いて見えました。

「足がふるえた。」
 「今までで一番上手にできました。」
 「中学生の演奏はさすがやな。」
 様々な感想を持ち、音楽発表会が終わりました。

千人もの観衆の前で演奏したこと。他校のすばらしい音楽を生で聴けたことは、すばらしい体験であり、いい思い出になったと思います。

河辺中学校

二度目の挑戦!

十二月十六日(水)午後、老人クラブ(会長本田一氏)との交流会が始まった。今年で三回目である。

まず、縄田進氏から、「しめ縄」の由来についての話を聞いた。その後、「しめ縄」づくりにとりかかった。昨年に続いてのしめ縄づくりである。老人クラブの方々が、慣れた手つきで手際よく形をと

とのえていかれるのに対して、生徒たちは悪戦苦闘の連続であった。先生方も挑戦してみたが、飾るほどのものにはならない。さすがに年の功である。生徒ともども脱帽。



〈昔はな～・・・〉

あった。ぜひ来年も続けたいものである。

河小サッカーチームVS努理意夢 サッカーで交流

平成四年十二月二十三日、国立競技場には満員の観客が詰めかけ、午後一時開始の天皇杯準決勝、読売対浦和の試合開始をまっていた。

その試合の約三時間前。河辺中学校グラウンドでは、河辺小学校サッカークラブ対努理意夢チーム（青年会議）の試合が始まっていた。

この試合を行なうキツカケになったのが、せつかくのクリスマスなので、青年会議を中心として、役場の若手職員と共に何かプレゼントを渡すのを目的として、サッカーの試合でもやったらどうか、という話になり、トントン拍子に話が進んでいった。

当日は、冷たい雨が降る中、半ば強引にサッカーの試合が行なわれ、昼食準備に来て頂いた保護者の方々約三万人（実際は三十人くらいだったかも）に見守られる中、午前十一時キックオフとなった。努理意夢チームのメンバーは、大半が四〜五年振りのサッカーとあって、最初こそ



〈ハッスルしました〉

元気に走り回ったものの、前半五分を過ぎた頃には、約半数のメンバーは寄る年波には勝てないのか、かなりバテてカラ振りしたり、こけたりしていた。
今後共、この企画を続行していきたいと考えております。又、二月には、河小バスケットチームとの対戦も考えており、三月には卒業記念としての両試合も企画しております。
その時には、又、関係者の方々には御迷惑をお掛けすることになると思いますが、よろしく願います。

婦人会員額に汗！

花いっぱい運動INふるさと公園

寒さひとしお身にしみる、十二月十五日、ふるさと公園で、婦人会員十二名による、花木苗植えが行われました。
本田一氏に苗立てしていただいた、マリョウウ二百四十本、ナンテン、アジサイ、計約三百本を、ふるさと公園斜

面、展望広場登り道等に植え、こごえる手にくわをにぎり、力強くふりおろす様には、婦人会のたのもしさを改めて感じました。
前回ふるさと公園に植えたマリーゴールド、アゲラタムの花の時期は終わったものの、マツバギクは地面にしつかりと根をおろし、次の開花時期を待っています。少しづつではありますが、婦人会活動の

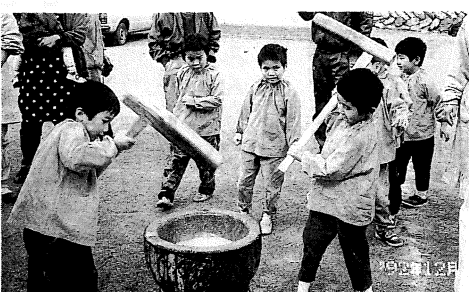
成果が表われているのを感じました。

母の教室

もちつき会inふるさと公園

天候にも恵まれた十二月五日、第四回父母の教室「もちつき」が河辺小学校グラウンドで行われ、幼稚園児二十八名とその保護者十九名が参加しました。「もちつき」を父母の教室の恒例行事にしてはどうかと、幼稚園からの提案もあり、昨年に引き続き、第二回目となった今回は、少しでも園児にもちつきを体験してもらおうと、公民館長お手製の子供用きね二本も御目見得しました。
ふりおろすきねに、おもち

がくつつくやら、きねときねがぶつかり合うやら、悪戦苦闘し、それでも何とか十キロのもち米から、おいしいおもちが無事出来上がりました。
小田太助さん差し入れのミカンと、お母さん手作りの、あつたかいぜんざいを、みんなで元気に「いただきまーす。」



〈園児たちも頑張りました〉

骨髓バンクへ登録を

♡命を救えるのはあなたかも♡

白血病、再生不良性貧血などの難病は、以前は有効な治療法がなく治りにくい病気でした。しかし、骨髓移植という治療法により、これらの病気で苦しむ患者さんが健康を取り戻せるようになりました。ところが、移植された骨髓がうまく機能するためには、患者さんの白血球の型が骨髓を提供してくださる方と一致

する必要があります。この型が非血縁者の間で一致するのは、数百人〜数万人に一人とまれであるため、骨髓移植を受けられない患者さんが少なくありません。そのため、広く一般の方々に呼びかけてドナー希望者の方々を募りH A L型を登録していただき、そのデータに基づいて患者さんへ骨髓を提供

していただく骨髓バンク事業を全国規模で実施しております。

骨髓移植を必要とする患者さんは毎年少なくとも千人以上といわれます。この方々を助けるためには数多くの人々が骨髓バンクに登録され、実際にドナーとなつていただくことが望まれます。

厚生省では、平成七年度までに十万人の登録を目指しておりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。パンフレット御希望の方は役場福祉課まで御連絡下さい。

オフトーク通信

県内自治体初

昨年七月から八月にかけて、各区で説明会を開催し住民の皆さんに加入をお願い致しましたオフトーク通信も、全世帯の九六%に当たる五百三十戸の皆さんに加入を頂き四月開局へ向けて着々と準備を進めております。

このオフトーク通信システムは、電話回線の空き時間を利用して情報を伝達しようとするもので、県内の自治体とし

ては初めての導入と成ります。

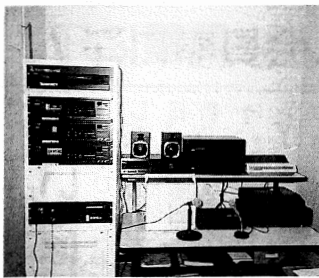
当面本村では、二チャンネルでの放送を予定しており、第一チャンネルは、主に行政・学校・農林業関係情報・消防・警察だよりなど。

第二チャンネルは、仕事、その他の用務で定時の第一チャンネルを聞くことのない人のための再放送や、各階層の意見を取り入れた番組を放送します。

この番組の編成等には、オフトーク運営審議会を設置

し、検討して頂く予定です。

新しい情報伝達システムを最大限に活用して、生きた情報をより早く、より正確に伝えることが、高度情報化時代の最大のテーマでありきつと皆様のご要望に答えられるかと思ひます。



〈オフトークセンター装置〉

駐在所たより

“正しく使おう
あなたを守る” 110番

一月一〇日は一〇番の日。河辺村から、一〇番すれば、松山の警察本部に通じます。

一〇番五つのポイント
一、何があつたか
二、いつ、どこで、目標は
三、事件、事故のあらましは
四、犯人の人相、逃げた方向
五、あなたの住所、氏名、電話番号は

誤つて一〇番につながつた時は「間違いました。」と言つて下さい。

みんなの力で暴力追放
暴力を許さず、見逃さないで通報しましょう。泣寝入りは、暴力団をふとらせるだけです。暴力団のことで困つたら積極的に相談を
警察本部相談室
〇二〇一三一―九一一〇
暴力追放推進センター
〇八九九―三二―八九三〇
大洲警察署 二四―二二七五

戸籍手数料一覧表

申請内容	現行	改定額
①戸籍の謄抄本 1通	300	400
②除籍の謄抄本 1通	500	700
③戸籍に記載した事項に関する証明 1件	200	300
④除籍に記載した事項に関する証明 1件	300	400
⑤届出・申請の受理又は届書その他の書類の記載事項の証明書 1通	200	300
⑥上質紙を用いた受理証明書(婚姻・離婚・養子縁組・養子離縁・又は認知の届出) 1通	1000	1300
⑦届書その他の書類の閲覧 1件	200	300

戸籍手数料が改定されました

か わ べ

意欲に燃えて

三杯谷の滝まつり盛大に開催

十一月八日、三杯谷の滝上広場に於いて、三杯谷の滝まつりが村内外多数の方々のご来場のもと、朝早くから夕方までにぎやかに開催されました。当日は、祭のため地元の有志により屋外カラオケステージが建設され、又ご婦人の皆さんのご協力により、おにぎり、キジ鍋食べ放題、酒、あま酒飲み放題の接待がありました。

今、川上地区（川上、百合谷、日除）住民は、地域奉げての祭として定着させたいと意欲に燃えています。というのも、ここ最近三杯谷の滝附近は、河辺の第二の観光拠点として、村当局のご指導のもと、滝への遊歩道整備、龍馬の休憩所、トイレ設置等と整備されているからです。そして一番は、連日少しずつですが、来訪者があることです。

今まで誰も知らなかった滝が脚光を浴びている。ひっそりとしていた地域に声が聞こえるようになった。少しずつ光が差ししてきたように感じています。もし、この祭を開催していないかったら・・・

祭は、何も知らない素人集団で作らあげたものでありますから、いきとどかなかった点、改善しなければならぬ点が多くあつたように感じています。滝まつりの開催は地域と地域外の交流はもとより、地域内での一体感、連帯感をつくりあげたように思います。そういう訳で、当日はそれぞれの責任の中で精一杯役割を果たせ、お互いに協力出来たことから地域住民の満足そうな顔が映つただろうと思いますし、そういう雰囲気を持っていただけたのではないかと思っています。

地域が一つになることは大変難しいことだと思います。村おこしでもそうですが、地域がまとまるのが、村おこしの第一歩だと思えます。私は今回の祭で、住民のまとまった力の大きさに大変驚きました。又、このような祭りが開催出来る地域に育てられたことに誇りを持っています。この祭の開催は地域が好きな証明であります。



当地区は、交通網の整備が遅れ、後継者不足といくつかの問題を抱えています。この祭がある限り、少しずつ解決されていくと思えます。

又、この当地区での祭りがきっかけとなり、村内に第二、第三の祭りが開催されればなと思つています。そういうきっかけづくりに当祭がなればなと思つています。

しかし、滝まつりも毎年同じでは発展性がありません。聞くところによると川上地区には、「穴」がたくさんあるようなので、この「穴」の整備開発も併せて行えば、もっともつとおもしろくなると思つてます。

最後になりましたが、三杯谷の滝まつり開催に際し、多くの人からご指導、ご協力がありましたことに対し衷心よりお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

健康マラソン大会

第七回河辺村健康マラソン大会が十二月六日、「河辺村住民の健康増進をはかり地域住民の連帯意識づくり、健康な身体と明るい家庭づくりに努める」を目的に開催されました。

今年も、河辺村青少年育成会議の御芳志により「お楽しみ抽選会」を行うことができました。くじを引く子供達の顔は真剣です。喜びにあふれた顔、残念そうな顔と子供達の表情は様々でした。

入賞者は次のとおりです。



〈よくがんばりました〉

部門	1 位	2 位	3 位
2K コース	小学生低学年の部	藤田 耕典	稲田 学
	小学生高学年の部	栄野 勝啓	片山 権人
4K コース	小学生の部	藤田 泰樹	大見 義徳
	一般の部	片山 文生	河本 泰
6K コース	小学生の部	富永 和孝	篠原 裕之
	一般の部	龍野 孝志	稲田 誠

分館対抗レクリエーションバレーボール大会

分館対抗レクリエーションバレーボール大会が十一月二十九日、河辺中学校体育館において開催されました。

この大会は、高齢化時代を踏まえ、日頃あまりスポーツになじみのない年代（四・五十代）を対象に男女別に行われ

ました。

試合の結果は次のとおりです。

○男子

一位 大伍分館

二位 植松

三位 坂本

四位 北平

○女子

一位 坂本分館

二位 植松

三位 大伍

四位 北平

健康たよりの

「糖尿病から自分を守る」

昨年十一月二十六日、十二月十五日の二日間、河辺村公民館において、糖尿病予防教室を行いました。糖尿病で現在治療中の方および、食

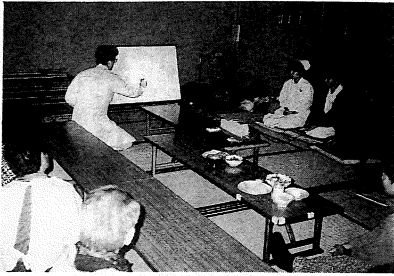
事に注意が必要と言われた方等、十一名の方に参加していただきました。

- 一回目は、午前中一、四〇〇kcalの一日の食事の調理実習をし、自分の食べる量について目でみてまた、実際に自分で計ってみて確認してもらいました。午後からは、栄養士による、食生活の注意ポイントについて、フードモデルをつかいながら、説明がありました。その内容としては、
- 自分が自分が管理するという意識をもつ
- 自分の理想的な一日の食事量を知る（指示カロリー）
- 運動と食事のバランス（一日一万歩歩く努力を）
- 自分の食べる食品のおもさをはかる
- 自分の体重をはかって知る
- 自分の標準体重を知る

（身長(m)×身長(m)×22）
食事はバランスよく、いろいろな種類のもを食べる
二回目は、午前中調理実習のあと、午後は診療所加藤先生の御講演がありました。

- 糖尿病とはどんな病気か
- 糖尿病になる原因
- 糖尿病にならないための予防

加藤先生はスライドをつかって、
糖尿病になってしまったあとの治療法等について詳しくお話ししていただきました。そして、どの病気にもいえることだが、病気になるような悪い生活習慣を改善することが大事、とくに今、若く元気なうちから、病気になるまいよ生活習慣を身につけることが大事



〈熱心に聴かれていました〉

だということを強調されました。参加された方々、みなさん納得された様子でした。この勉強会が少しでもお役に立てれば幸いです。

年金ポイント

保険料の未納は

ありませんか

今年度も残すところわずかになりました。保険料の年度の締めくくり、ご自分の保険料に納め忘れがないかチェックしてはいかががでしょうか。

もし、保険料の納め忘れがありますと、将来受給する老齢基礎年金が減額されるばかりか、病気やケガで不幸にして障害者になった場合の障害基礎年金が受けられなかったり、遺族基礎年金を受給できない場合もあります。

また、保険料をキチンと納めることは、自分自身の年金権の確保と同時に「世代と世代の助け合い」という大きな役割も果たすことになるのです。保険料を納付しているかどうか不明の場合は、役場年金係までお問い合わせ下さい。

冷たく曇った冬の日には水雨になるのだろうか、それとも深々と降り積もる雪になるのだろうかと思いがながら過ぎ、暑い夏の日は、見上げる入道雲が雨立でも降らせてくれたら少しは涼しくなるのになあとはい、今思えば春は新緑の香り豊かな日々を過ごしておりました。当時の自分にとってはそれほど思ってもなかった故郷が今ではたまらなく懐かしく思うことがあります。故郷河辺村の自然は、今も健在でしょうか。河川の改修、道路の拡張、加えてふるさととの宿、何度か利用させて頂きました。公園を背景に誠に目覚ましい発展だと嬉しく思っております。然しながら、やはり河辺村は人情味豊かな故郷の風土です。寄稿のお話をお受けして、そんなに歳月が流れていた

ふるさとに望む

松前町

田辺 吏之

(出合出身)



のだろうかと改めて思い起こしてみますと、役場在職中より二十数年が過ぎておりました。その当時嘗てなかった農林業不振の時代、当然ながら人口流出、過疎化現象もおこりました。そのため、歯止めの施策をと村長さんはじめ関係者の方々におかれましては誠に大変な事だったろうと思います。然しいつまでも同じ時代が続くとは思えません。豊かな自然を、そして、かえがたい人情味の溢れる故郷を守って欲しいと思います。ところで、隣りの肱川町にはダムが建設されると聞いております。肱川町共々、河辺村の発展の要素は益々大きくなっていくでしょう。その発展と共に、村民が一体となって故郷を守って欲しいと思いつつながら、皆様方の御健勝を祈らずにはおれません。

診療所だより

今年の冬は今のところ例年よりもかなり暖かいという声を耳にします。しかし、だんだん風邪症状で受診される方が増えてきました。インフルエンザが流行するという予測もありです。根本的な治療法は無い病気ですので、規則正しい生活をし、外出後はうがいと励行するなど予防に努めて下さい。

(診療所長 加藤 正隆)

C型慢性肝炎

①肝炎とは？

肝炎とは肝臓が炎症を起こした状態です。日本ではウイルスによる肝炎が七〇%以上を占め、特にB型とC型が慢性化し肝硬変から肝癌へと進行するため恐れられています。

②C型慢性肝炎の実情

B型肝炎はウイルス本体が発見され、ワクチンもでき、治療法が確立されつつあります。ところが、C型肝炎ウイルスは血中の量が非常に少なく、遺伝子は発見されていても本体はみつかっていません。

ん。そのため、ワクチンや薬ができていないのです。

③感染経路

最も多いのが輸血による感染です。入れ墨・不潔な鍼治療・セックス・母から子への感染なども考えられます。

④発見するためには？

感染しても初めのうちは症状が出ないことが多く、気づいたときには肝硬変になっていることも珍しくありません。早期発見・治療が大切です。ですから年に一度は血液検査を受けるようにしましょう。

⑤インターフェロンとは？

ウイルスに感染した細胞はウイルスをやっつけようとしますが、ウイルスに負けると肝炎が慢性化します。インターフェロンはこの防御作用を活性化させる抗ウイルス薬



です。特に中程度までの軽い慢性肝炎によく効くとされています。

⑥C型慢性肝炎のインターフェロン療法

入院の上腹鏡・肝生検を行い、慢性肝炎の程度を診断してから治療が始まります。インターフェロン投与開始後五日間ほど発熱があります。その後改善し約二週間で退院できます。それから三から六カ月ほど週に三回程度通院してインターフェロンの投与を受けます。

インターフェロン療法による効果のあらわれかたは他の薬剤とはかなり異なります。医師の指示に従い間違いない治療を受けましょう。治療効果は個々の病状によつてかなり差があり、投与終了後数カ月から一年以上かかつて治る例もあるのです。

また、症状が良くなったからと言って勝手に治療を止めたりしてはいけません。医師のOKが出るまで根気強く治療しましょう。

Q & A

Q1薬を飲み忘れたときはどうしたらいいでしょうか？

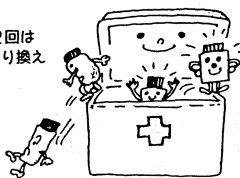


まとも飲みはダメ

A1気がついた時点からまた飲み始めればいいでしょう。残っていた薬と一緒に飲むと副作用を起こす危険があります。医師から処方された薬であれば、飲み忘れた事を正直に報告する必要があります。ビタミン剤などは飲み忘れてもあまり気にする必要はありません。

Q2古くなった薬はどうすればいいでしょうか？

A2薬の効果は徐々に無くなっていくもので、有効期間を過ぎたからといってすぐに性質が変わるわけではありません。



年に1・2回は新品に取り換え

せん。しかし、薬は早めに使いたい切るのが原則です。古いものから順に使う、年に一・二回は全部の薬を捨てる等の工夫をするとうまいでしょう。

感染症情報

インフルエンザが首都圏・近畿地方で発生し、患者数は昨年の約二倍となっており、大きな流行が予測されています。

嘔吐下痢症が寒さと共に増える予測されます。

手足口病・伝染性紅斑(りんご病)が全国的に散発しています。

突発性発疹が増加傾向にあります。

ニューフェイス

昨年十二月より勤務している看護婦の続チエさんが本年一月に正職員となりました。皆様どうぞよろしくお願います。尚、看護婦の新カヲルさんはご結婚のため昨年未で退職されました。おめでとございます。お幸せに！

まごころ銀行 からお礼

平成四年四月から平成四年十二月までに、河辺村社会福祉協議会のまごころ銀行に対し「香典返しにかえて」と次の方々から多額のご寄付をいただきました。(敬称略)

- 山岡キミエ、谷本幸徳、大野清正、山田スエ子、久保清春、片山寛、松永テルコ、丸田耕三郎、横田勇喜、運勢満信、玉井勇、増本道子、尾崎クニエ、沖野順啓(お礼返し)

寄付金額

一、〇〇〇、〇〇〇円
各位のご芳志に対し、厚くお礼を申し上げます。

なお、支出状況は次のとおりです。(十二月末現在)
霊柩車車検(四年度分)

- 一、二六、〇二七円 遺族会補助
 - 三〇、〇〇〇円 追悼式助成
 - 三一、二八六円 支出総額
 - 一八七、三一三円 現在高一、五九七、四一三円
- 以上がまごころ銀行会計となっております。
- 有難うございました。

役員紹介

☆民生児童委員(九名)

- 総務 松本 吉久
- 委員 上川 勝利
- 五頭 建市

☆文化財保護委員(八名)

- 副会長 向井 猛
- 委員 増本喜久男
- 本門 清昭

同和教育シリーズ (44)

花子は……夕食のあとで(三) 母と子の話が果てしなく続く時、祖父が帰って来た。「もんだぞ、何を話しようぞ。」

「じいちゃんなら老人会の世話もしているのよ、よう知るところ。同和教育の話をしているのよ。」

「うん、うん、今頃、公民館などでよくやっとなる……。」

「そうね、花子も学校でよく勉強しているのよ。」

「そうか、今は国がこの問題をを取り上げるようになったのう。わしらの子供の頃は、皆がその人たちを差別しよった。毎日のつき、いや祭り

短

歌

十九号に指定の榊折れ伏しぬ

太鼓と生れ生きよと祈る

片すみ我真紅のリボン落ちており

ちよと気になる朝のエレベーター

夜もすがら鳴き明かすかの虫の音を

聞きつつ眠る心満ちいて

廃校となりて三歳の桜咲く

木の下に遊ぶ子供等は居す

長雨の春茸終りしか乾小屋に

煙たなびく山里の朝

つぎつぎと親しき友らみまかるも

吾はのこりて八十路こえゆく

姉の病孫の合格念じつつ

七社まいるの険しき道ゆく

佐伯 君子

増本喜久男

国井ミネヲ

山本カシ子

本田ミネヨ

大西ミツマ

上林ヨシ子

消息

自 4.10.11
至 5.1.10

☆ お誕生おめでとう

出合 本門 亮 父 哲也
三久保 清水 吉彦 父 吉則

☆ 末ながくお幸せに

(高木 富重 (国木)
篠崎 千津野 (大洲)

(續) 和生 (日の平)
今藏 千ヨ (大洲)

☆ おくやみ申し上げます

露内 細井 安好 80歳
植松 智葉 峰夫 93歳
植松 藤原 亘 66歳

花子は、祖父、母と同和問題について話し合えたことに喜びを感じていた。

そして、全国の家庭で、このような話し合いがもたれると、どんなにすばらしい世の中になるだろうと思いつつ、自分の部屋に帰っていった。(河辺村同和教育協議会)

事、そのほか、けんかの時はひどい扱いをしようとした。今世の中から考えると、全くひどかった。差別することがあたりまえだった。

その上、貧乏人に対する差別もひどかった。じいちゃん方も貧乏で、よけい人からばかにされることもあった。貧乏人の子は、どんなに頭がよくとも、上の学校へ行くことはできなかったんじや。今は、貧乏な人に対する差別は

少なくなったが、同和地区の人に対する差別は、まだ残っている。しかし、だんだんこれもよくなってきている。もうひとがんばりじゃ。」

「そうよ。本人には何の関係もないのに。人間は皆平等であるべきはずなのにね。」

母「とにかく、一日も早くこの問題が解決されるといいわねえ。花子もしつかり勉強して、また同和問題について家族で話し合いましよう。」